

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292400050		
法人名	株式会社グループホーム湯之崎		
事業所名	おばま温泉グループホーム湯之崎（ユニットえびす）		
所在地	〒854-0514 雲仙市小浜町北本町字湯之崎905番地32		
自己評価作成日	令和 4年 9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 4年 12月 6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・看取り介護を受け入れており、ご家族様への説明を早めに始める事で、ご家族様の心に余裕がある段階から、考える時間が作れる様にしている ・入院後もすぐに退去となるのではなく、退院後もホームでの生活に戻れることを目標としている ・少しでも笑いが起きる様にしている
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは温泉旅館街に立地し、入浴は天然源泉風呂で心と体を癒やせる環境にある。理念の思いと基本方針は職員に浸透し日々の支援に繋がっている。開設者の「食へのこだわり」は受け継がれ、郷土料理や誕生日メニュー、行事食や手作りおやつなど、楽しむための工夫は多彩である。また、入居者も家事仕事を担い、職員は心豊かな張りのある生活を支援している。地域の作品展への出展やコロナ禍により3年ぶりに開催した「湯まつり」への参加の他、大晦日に神社で豚汁づくりを入居者も行い、初詣客に振る舞い喜ばれている等、地域に溶け込んでいる。看取り支援では、家族に早い段階での意向を確認している。准看護師である職員が作成した「エンゼルケアマニュアル」に沿い、家族と共に支援しており、“大事な最期を支援させてもらう”という思いで、やりがいを持ち看取りに取り組んでいることは、特筆すべきであり、家族から感謝の声が届いている。入居者の自分らしく自由で生き生きとした暮らしが見えるホームである。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム入口／台所に掲示してある 完璧に把握できているとはいえない	理念と基本方針を掲げ、入社時に説明している。今年度は、更なる周知を図るためカードを作成し全職員に配付している。理念と基本方針を普段あまり意識することがないとのことであるが、支援内容からこれまでの生き方を継続する支援が確認でき、着実に具現化しているといえる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により以前まで参加していたイベントなどへは参加できていない コロナの感染具合が落ち着けば、出来る限り地域との繋がりを戻していきたい	コロナ禍により3年ぶりに「湯まつり」が開催され、地域行事での交流を再開している。地域の作品展に入居者が出展している他、中学生の職場体験では玄関先での訪問があり、手作りの籠や手紙が届いている。また、大晦日には入居者も豚汁作りに励み、神社で地域住民に振る舞っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症対応型であることは、一般的には知られていないと思う 入居者様のご家族様だけでなく、相談ができる施設でありたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて入居者様の状況を2ヶ月に1回報告している その内容は職員のミーティングでも説明している	年6回規定のメンバーを満たし開催している。入居者の入退去、看取り等の近況報告や行事等の報告後、運営推進委員と活発に意見交換を行っており、助言や地域の情報を支援に活かしている。欠席者には会議報告書を、家族には省略化した議事録を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な連携は特にないが、過去には権利擁護支援を利用されていた入居者様と雲仙市社会福祉協議会の方との橋渡しなど対応していた 新型コロナワクチン接種に関してなどは、主治医との連携含め、連絡取り合いながら協力いただいている	行政からオンラインによる研修の案内があり参加している。新型コロナ対策等最新の情報を得ている他、日頃から運営における手続きや不明な点を問い合わせている。入居料金の検討が必要な入居者の担当者会議に、市担当課の職員が同席するなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修へ参加している内容についてはミーティングで説明している 又離床センサーは必要な入居者様に、ご家族様の了承のもと設置させていただいている	身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を2ヶ月毎に運営推進会議と同日に開いている。言葉による拘束の他、離床センサーや車椅子の使用について等、身体拘束に繋がらないかを職員に投げ掛け検討している。外部研修を受講後も全職員にフィードバックしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	コロナ禍にて研修会は減っているが、保管している報告書を見直すことができる 虐待防止の為に職員への心のケアも大切にしたい		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に比べると理解できる職員も増えているかもしれない 研修会があれば参加が必要であり、今後随時説明を行っていく必要もあり		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約までに面会や見学を重ねられることがあり、契約は施設長が対応している 入居後はご家族様が少しでも安心できる様、現場の職員も含め相談・報告を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の来設時や電話にて相談を受ける事がある アンケート(意見)をいただける様玄関にご意見箱(袋)を設置している	苦情受付窓口は明文化し家族に説明している。入居者の状態やホームでの様子を職員手書きの便りで毎月伝える他、年2回発行のホーム便り、運営推進会議議事録の送付など信頼関係の構築を図っている。入居者の要望で洋菓子屋の訪問販売の反映がある。ただし、家族の意見は少なく本音の抽出に家族アンケートを検討している。	コロナ禍で家族と接する機会が減っている中、家族アンケートを実施し、家族の本音の意見抽出を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員毎に相談しやすい職員がいると思われる 備品や介護用品に関する購入要望等は、即応できない事もあるが購入希望申請書を上げたりして相談を行っている	ホームでは資格取得支援規定を導入し、職員のスキルアップを支援している。コロナ対応や入居者の介護度増で業務は増加し、月1回の職員会議はケアカンファレンスで終わっている。職員は購入希望申請書で物品の要望を出し、おしぼり器の導入など反映があるが、方針の意思統一や提案等直接、意見要望を伝える場は設けられていない。	多忙な時ほど方針の徹底のため、意思統一の場や職員が提案、要望を出せる機会の確保は重要である。工夫に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員不足の中で全職員が頑張っていると思う やりがいがある仕事なので、職員が増えた際にはその気持ちを大切にしたい		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望があれば、資格取得や研修会参加へのサポートができています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍では他ホームとの交流も減っている 集合研修や共同で行うイベントを行っていた頃は、定期的に繋がりを保てていたが、今後再開されれば以前の様に活動を通して交流を図りたい		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご家族様や利用されていたサービス事業所に聞いたご本人様の情報と、ホームにて生活開始後の言動や行動などを記録に残し、得た情報とを合わせて、申し送りやミーティングにて、ご本人様に寄り添うケアについて確認合っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様より困っている事や不安に思う事など相談があった場合は、現状のケアの内容やホームの対応などを説明している 又ご家族様の意見はすぐに職員に周知させ、ご家族様との関係性が築ける様に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症の進行著しい方が入居され、記憶力の低下のみが進行している違和感を先ず覚え、主治医とご家族様との関係性を重視しつつ、ご本人様やご家族様の一番望まれる姿を思い浮かべ、何ができるかを全員で話し合った 体調管理に関しては入居直後のアセスメントより把握できる様になった		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、ご本人様の言動に耳を傾け、一番何をしたいのか、何をしてほしいと思われているのかを考え、職員との会話よりご本人様にも確認しつつ、入居者様中心の介護を行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度の近況報告にて、ご本人様の状態やイベント情報などをお知らせし、ご本人様の誕生日会などには、ご家族様にも参加を呼びかけ、ホームへ来設しやすい環境作りを行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の中によく出てくる地名や場所、ご友人などのお名前は記録に残し、可能な場合はお連れし、昔の事を思い出していただく様に努めている	職員は入居者の生活歴を把握し、会話などで得た情報は個人日誌へ記載し共有している。コロナ禍で、状況により面会は制限があるものの、家族や親戚が訪れている。新聞や読書、編み物等習慣や趣味を継続し、職員と墓参りや自宅の草むしり、生まれ育った地域へのドライブで馴染みの人と会うなど馴染みの継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が一緒に作業やレクリエーションへ参加していただく事により、お互いに話し易い環境作りを心掛け、関係性が築ける様に支援を行っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様が亡くなられた際には、葬儀へ参列させていただいている 退去後ご家族様とお会いした際、生前の入居者様の話をし、ご家族様からは温かい言葉を頂いている 毎回温かい言葉を頂ける様に努力している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰りたい等不安を口に出された場合は傾聴し、なぜ不安が出現したかを考え、その方の気持ちに寄り添える様にしている 不安な気持ちを少しでも軽くする為、出来る限り対応しているが、コロナ禍で出来ない時もある	職員は入居者の1日の過ごし方や習慣を把握し、起床、入眠は自由で在宅時に近い生活を目指している。発語や意思疎通の困難な時はイエス・ノーで答える問いかけや表情、仕草で判断している。本人の意向や思いは個人日誌に記載し共有し、介護計画へ繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される際には、ご家族様とご本人様から話を伺う様にしている 入居者様が生活をしていく中で、昔の話や得意な事、趣味など教えてくださることがある		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居以降の一日の流れや言葉などは個人日誌などに記録し、生活習慣の把握に努めている 歌を聞きたい方、見たいテレビ番組がある方など希望に応じている 自宅での生活に近い状態で生活していただければいいが、難しい事もあるので近づける様にしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ミーティングを行い、話し合いの下介護計画を作成している 又個人日誌も介護計画と連動しているので、全職員共有はできているが、変化があった場合の再評価までは出来ていない様に思われる	毎月のミーティングで主に計画更新時にある入居者を対象に見直している。その都度本人・家族の意向を取り入れると共に、担当職員や計画作成担当者が原案を手掛け、完成に至っている。計画には短期・長期目標を設けておらず、入居者の意向に沿った具体的な目標・計画が充実しており、個人日誌との連動も確認できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌へ食事摂取量・排便・気になった事や言葉などを記入し、特変あった場合はホーム日誌へ記入し、申し送りにて情報を共有する様にしているが、確実に申し送り出来ていない事もあり情報を共有する為にはどうしたらいいか、今後の課題と言える		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅・外出希望時はできる限り副える様にしているが、ご家族様のご都合等で自宅への外出が難しい方は、電話にて声を聞き安心していただける様にしている 添い寝が必要な方には眠られる迄職員がいる様に、自宅の雑草が気になる方と共にご自宅の草刈りに外出したり、その都度様々な対応ができる様にしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で外出も難しい時は、入居者様の希望によりお菓子の訪問販売に来ていただき、楽しく買い物されていた 外出可能な時は希望に副い、買い物へお連れしている 訪問美容では、カット・カラー・シャンプー等、お一人お一人の希望に対応してもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居となる際にかかりつけ医の確認をし、入居前からのかかりつけ医の継続ができる様にしている 遠方から入居される場合はご家族様へ相談行い、近くの病院でも大丈夫が確認している	協力医をかかりつけ医としており、定期的な往診を受け、准看護師がメディカルリーダーを担い健康状態を確認している。訪問歯科や訪問看護師の利用もある。また、入居前のかかりつけ医を継続する場合は家族が同行している。緊急時や他科受診等は職員が通院支援を行っており、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師来設時、入居者様の一週間の様子を報告している 変化があった場合は一緒に観察行い助言を頂き対応している 来設日以外に何かあった場合は、電話で相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたときは出来る限り訪問し、情報を得る様にしているがコロナ禍で面会等できない場合は医療連携室へ連絡し、情報を得、退院が早期に出来る様相談も行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様へはアンケート方式で記入していた だいて、アンケートに沿ってご家族様の 来設時確認をとっている。時間の経過により 気持ちの変化もあると思われるので、ご家族 様の気持ちに寄り添い、最期までその方らし く過ごしていただける様に努めている	協力医と連携を図り、看取り支援を継続している。 看取りの指針を入居時に家族に説明し同意を得 ると共に、終末期には早い段階で意向確認書を交 わし、その後も丁寧に説明し、意向を確認してい る。准看護師が作成した「エンゼルケアマニュアル」を基に実践しており、家族と一緒に行った事例 もあり、家族から感謝の声が届いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は 応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力 を身に付けている	急変時、事故発生時は都度対応できる様、 マニュアルも作成し指導も行っているが、 急変時の状況が理解できていない職員も いる為全職員がきちんとした対応ができ る様勉強会をしていかなければいけない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用 者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難 訓練等を実施することにより、全職員が身につけると ともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	火災の避難訓練は定期的に行っている 自然災害の訓練として地震を想定した 訓練を今年初めて行ったが、今後はそ の他の災害も視野に入れ、繰り返し行っ ていかなければいけないと思われる	年2回、日中・夜間想定による消防避難訓練を実 施しており、内1回は消防署が立ち会っている。ま た、前回の課題から今年度は地震時の避難訓練 に取り組んでいる。ただし、自然災害マニュアルの 作成、備蓄の整備はこれからである。また、初期 消火等、全職員が身につけるまでには至っていな い。	昨年、雲仙市では大雨による土砂災害に よる被害が発生しており、職員の意識も変 化が見られるため、今後の万全な対策が 望まれる。事業所の立地条件を基にした 独自の自然災害マニュアルの作成、備蓄 の整備、また初期消火等の自主訓練等、 全職員への周知徹底に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ね ない言葉かけや対応をしている	入居者様に対する言葉遣いには注意し、職 員一人一人が年上の方への対応という意 識を持ち、入居者様のプライベート空間で ある居室は、必ずご本人様と一緒に入室 する様にしている	職員は入居者への言葉遣いに注意し、支援は本 人の意向を確認し行っている。また、羞恥心に配 慮した声掛けや居室はプライベート空間とし、本人 と一緒に入室するなどプライバシーと尊厳を守っ ている。個人情報の取り扱いは写真掲載を含め、 家族の同意の署名を得ている。また、職員は採用 時に守秘義務の誓約書を提出している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決 定できるように働きかけている	入居者様のご希望に関しては、状況に応 じ、なるべく対応できる場合はすぐに対応 行う様にしている。出来ない場合も不快な 思いをさせない様に出来る事と出来ない 事の説明をしっかりと行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひと りのペースを大切にし、その日をどのように過ごした いか、希望にそって支援している	入居者様お一人お一人のペースを把握 し、要望や意見を尊重しながら、又入居 者様が好まれる事、喜ばれる事を考え ながら対応に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣・整容は毎朝必ず行い、ご自身にてできない方については、職員が行っている。基本的に2ヶ月に一度のペースで、大きなイベント前等、訪問美容師に来ていただき整髪していただいている。時折買い物へお連れし好みの洋服等を選んでいただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の段階では下拵えなど、食事前には盛付を、食後は下膳や台拭き、食器洗い迄入居者様に手伝っていただき、食事中はメニューなど説明しながら、職員といっしょに食事を楽しんでいただいている	献立は1週間毎に作成し、専任の職員が調理している。食材の買い出しに入居者も同行し、米とぎ、野菜の下ごしらえや盛り付け、下膳や食器洗い等手伝っている。行事ではオードブルを取り寄せる他、ビールや焼き鳥のビアガーデン風、法被を着て寿司屋の演出等、食事を楽しむ工夫は多彩で入居者に好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様お一人お一人の健康状態、食事形態を職員全員が周知し、対応を行う努力をしている。食事が十分に摂取できない入居者様に対しては栄養補助食品等を用いて、対応を行っている。脱水になり易い方の一日の水分量を記録して特変時には確認できる様にしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアしていただき、介助が必要な方も職員にて対応している。入居者様によっては定期的に居宅療養管理指導を受けていただき、歯科医師との連携の下誤嚥性肺炎や肺炎予防に努めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様へトイレへ行かないか声掛けを行い促したり、表情や声でトイレへ行きたいかまだ大丈夫かの判断を行っている。オムツの方をトイレでの排泄に戻すという事は退院後等に限られるが、自立の状態を出来る限り長く継続できる様に常に意識して支援をしている	職員は、排泄チェック表や口頭にて入居者の排泄状況を把握し共有している。日中はトイレでの座位排泄を基本とし、声掛けや誘導、排泄介助を行っている。毎月、ミーティングで排泄支援方法を検討し見直し、リハビリパンツから布パンツへ改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便が出ていない日が続いている方がいる際は、申し送りにて全職員が情報を共有し、水分を多めに摂っていただく様にしている。又普段から十分に水分を摂っていただく様に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴のチェックリストを確認して、その日入浴の声かけをする方を決めている。タイミングが合わなければ翌日に再び声をかける様に伝えたりしている	ホームには温泉を引いており、使用の都度、浴槽を掃除し湯を張り替えている。入浴は週2回を基本としており体調や気分にて対応している。希望で毎日入浴する入居者もいる。車椅子の入居者はシャワー浴である。希望があれば同性介助や好みのシャンプー類にも対応し、季節のゆず湯や菖蒲湯など楽しむ支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様が眠気を訴えられていれば、入室を声掛けしたり居室へお連れしたりしている。又よく眠れる様に環境を整えている。高齢の方で食事の際しっかりと覚醒していただく為、時間を決めて昼寝の時間を確保している方もいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一番慎重に取り組む必要のある服薬支援であるが、指導が上手くできておらず、立て続けに誤薬の事故報告書を提出した時期があった。様々な対策を施したが、未だ完全に不安が払拭されていない為、今後もチェック体制を万全にしていける必要がある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケやDVDなどから音楽を流したり、それに合わせて歌を歌ったり、体操の番組に合わせて体操したり、一日一度は身体を動かしていたっている。食器洗いや洗濯物たたみなどは日常的に入居者様の仕事となっておりお願いしお任せしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出が困難な時期は、要望があっても理解していただいていた。コロナ禍でなければ、日課にされている朝のジュース用のバナナやおやつを買いに行ったり、遠方の病院受診の帰りに大きな店舗でアイスを買ってその場で食べて帰って来られたり、喜ばれる事を考えている	コロナ禍のため、個別や少人数で出掛けている。春は桜の花見に弁当を持って出掛けたり、文化祭見物他、地域の催し物へ出掛け楽しんでいる。入居者の要望で新規開店の100円ショップに職員同行で出掛け、大晦日に神社で入居者も豚汁を作って初詣客に振る舞い喜ばれている。お礼におみくじを貰う等、積極的な外出支援が見える。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、ご自身で出来ない方はホームにて管理している。ご自身で買い物ができる方は、職員同行の下買い物していただき、ホームへ戻り職員と共に買物の品と残金を確認し、ご本人様のノートにご自身で記入していただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの贈り物が届いた時は、ご本人様に電話か手紙が確認し、その要望に副った支援を行い、ご家族様からのお電話があった時も出来る限り対応している。又文字を書く事が可能な限り、ご家族様やご本人様の名前を書いていただく支援も行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中リビングにて過ごされている方多く、お一人お一人暑さ寒さの感覚が違うので、着衣にて調節していただいたりしている	リビングでは入居者が新聞を読んだり、家事仕事など楽しみと役割を持って過ごしている他、随所に入居者手作りの毛糸飾り等を飾っている。キッチンからの調理の音や匂いは、家庭的で五感を刺激している。ネット動画から懐かしい歌謡曲等が流れ、落ち着いた環境となっている。職員はトイレ掃除チェック表を付け、環境整備に徹している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新聞を読まれたり、漢字を書かれたり、テレビを鑑賞される方、居室にて過ごされる方など、それぞれに過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族様の写真やプレゼントされたものを飾られたりして、入居者様が居心地よく過ごせる様心がけている 歌が好きな方の居室にはテレビ＋ブルーレイデッキがあり、お好きな時に鑑賞されている	持ち込みに制限はなく、使い慣れた家具や衣装ケース、家族の写真などを自由に配置している。小型の洗濯物干しを置き自室で干したり、テレビでサッカー観戦を楽しんだり、音楽を楽しむなど、在宅生活を継続する様子が窺える。職員は毎日の清掃・換気・室温調整等に努め、本人が居心地よく過ごせるよう心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ等表示されているが、移動の際混乱されている方には、職員より説明行い行きたい所まで安全に移動していただいている まとめたゴミの置き場所をご存知の方は、居室のゴミをご自身で捨てに行かれている姿もあり		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292400050		
法人名	株式会社グループホーム湯之崎		
事業所名	おばま温泉グループホーム湯之崎（ユニットほてい）		
所在地	〒854-0514 雲仙市小浜町北本町字湯之崎905番地32		
自己評価作成日	令和 4年 9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 4年12月 6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・コロナ禍で地域やご家族様を巻き込んだイベントは自粛しているものの、入居者様それぞれの誕生日や季節に応じたイベントを行うことで、刺激のある生活を送っていただいている
・新型コロナウイルス感染は防げなかったが、お一人お一人にその都度対処療法を丁寧に行い、皆様の回復も早く、その後は感染対策の徹底を見直し、ユニット内の感染に留める事ができた

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に理念の説明、確認は行うものの、全職員への周知徹底は難しい 正社員は夜勤帯の時間がある際に、パートスタッフは特別時間を作り、理念の再確認の時間を作ってみてはどうか		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在新型コロナウイルスの流行により、地域を交えてのイベントは自粛中である 又ご家族様のご面会も以前に比べ減ってしまっているが、近況報告や湯之崎通信等で定期的に入居者様の普段の生活の様子を伝える様にしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍にありホームから外への発信は難しいものの、入居見学や問い合わせの際等に、ご家族様やご本人様への説明、発信等は行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、ご家族様代表の方を交えての運営推進会議を実施し、参加できないご家族様へも毎回報告書を送付している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護認定の更新等はご家族様に代わりホームにて手続き実施しており、又入居料の入金が経済的に困難な方に関しては、入居前よりお世話になっている市の包括支援センターの担当の方と連携し、相談に乗っていただいている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修会には定期的に参加し、報告書にてホーム内での周知を行っているが、現在研修会自体が少なくなっている為、過去の研修内容の再確認を行う必要あり		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホームでは、年に2回の研修受講が義務付けられている為、各協議会の研修会では虐待関連をテーマにした内容を取り上げられる事も多く、必ず一人以上は参加する様にしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様に成年後見制度を利用されている方もおり、それについての研修会など参加しているものの全員の熟知には至っていない 今後も研修会があれば参加したい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関するご家族様への説明は施設長が窓口となり説明を行い理解、ご納得いただいているが、職員の方では年度途中の改定もあるものの、契約内容自体理解していない事が多い 一度重要事項説明書だけでも目を通す必要があると思われる		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には参加しづらいご家族様もいるかもしれないので、ご来設時に職員より意見を伺う場合があるが、対面での意見は難しい様子 匿名でのアンケートなどを検討してはどうか		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体としての意見を出す場は設けられていないものの、コロナ禍である為ホーム内感染時のホームの指針、職員感染時の休みや、その間の給与内容等はミーティング等の職員全体で場で説明がほしい		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の人員不足及び突発的な欠勤等による超過勤務にて、体力的にきつい場面あり シフト内容の改善、もしくは余り超過勤務とならない様整備してほしい		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内には職員全体で定期的に参加しているものの、個人の資格取得等にはホームのサポートがあっても積極的な参加はない 職員が関心持てる様な取組が必要であるが、時間もとれない事が現状である		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍最中の頃は、外部との交流は極力避けていた事もあり難しかったが、全国的に感染拡大が落ち着いてくれば以前の様な交流も再開していきたい		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時又は入居後などに、ご家族様から、又可能であればご本人様に、入居前の生活習慣などお聞きし、安心して生活していただけるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様やご本人様へ、困っている事、不安に思っている事等ないか、日頃よりお聞きし関係作りに努めている 要望があればできるだけ対応に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後、入居以前のサービスが利用できなくなる事もご家族様、ご本人様にも説明は行っているが、出来る限りその穴を埋められる様な支援、対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内での作業、年中行事などを通して、暮らしを共にする者としての関係作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度の近況報告にて、ご家族様へご本人様の様子をお伝えしている 疎遠になりつつあるご家族様もある為、ご面会にお誘いしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔話をお聞きし、馴染みの場所など可能であればお連れし、知人の方にもお会いしていただければと思っている 病院受診の帰りに、入居者様の地元へ寄り、お墓参りにお連れしたりしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず 利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努 めている	一緒になって作業やレクリエーションなど していただき、目や耳がご不自由な方や 体のご不自由な方には、職員が間に入り 支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性 を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過を フォローし、相談や支援に努めている	退去後にお礼のお手紙を頂いた事もあり、感 動した 長年入居されていた方が逝去され、 初盆に入居者様が心を込めて作った精霊船 をご家族様に見に来ていただいたり、初盆 のお参りに伺った入居者様もある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努 めている。困難な場合は、本人本位に検討している	『帰りたい』『家が心配』『家族は大丈夫?』と 帰宅を希望される方はおられるものの、ご本 人様入居後のご家族様の生活スタイルの変 化や思いなど、相談も必要である為、殆どが 職員の傾聴のみで終わる事が多い		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、こ れまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様の人生・歴史などバックグラウ ンドの把握や入居に至るまでの経緯な どお聞きし、その後の支援・対応に努め ている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等 の現状の把握に努めている	お一人お一人の生活習慣や心身の状況 に合った生活を送っていただける様努 めてはいるものの、職員不足や集団生 活の性質上対応は不十分であると思う		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につい て、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの 意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作 成している	ミーティングにて、お一人お一人の状態 に変化があれば意見を出し合い、その 時に必要な方から見直しと評価を行い、 介護計画の作成に努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別 記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介 護計画の見直しに活かしている	気になる事があれば、個人日誌・ホーム 日誌に記載し、職員同士の情報の共有 やその後の対応に役立てている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様から希望があれば、出来るだけ希望に副った対応に努めたいと思っている ご家族様よりキーパーソンの方が亡くなり意思を引き継いで下さったが、やはり不安を訴えられた為、成年後見人である法テラスに同行し、安心していただいた事がある		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの感染状況を見つつ、老人会や文化祭の作品展示会に出展させていただき、少人数に分かれて展示会の見物を行ったり、お正月には初詣にお連れしたりしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全入居者様がかかりつけ医を持たれており、定期的に診察を受けていただいている 何かあればすぐにご家族様と主治医との相談を行いつつ、状態に応じた薬の処方や、検査をスムーズに行える様連携を図っている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問看護師より診察を受けていただいております、入居者様に何か変化があればすぐに相談を行い、アドバイスをいただき、日々の入居者様のケアの参考とさせていただいております		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、コロナ禍により面会制限がある病院へは、着替えや日用品をお届けした際に看護師等へ入居者様の詳しい状況を聞き、早期退院へ向けての準備等の動きができる様にしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですること十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、主治医やご家族様と相談を行いつつ、看取りへ向けての説明も行いながら、対応を話し合っている 出来るだけ早い段階でご家族様に考えていただける様、なるべく早期に説明する事で、考える時間を持つ事ができたと仰っていた		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルはあったが、入居者様一人一人の様々な対応を経験する中で、ホームのメディカルリーダーが独自にマニュアルを作成したり、実際に褥瘡を作ってしまった入居者様の対応を、全スタッフに伝授しその研修報告書をマニュアルとするなど、辛い経験を繰り返さない為の訓練を行った		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年に2回小浜消防署協力の下、1回は必ず指導をいただき実施している これ迄火災避難訓練のみしか行ってこなかった為、今年6月に地震を想定した災害避難訓練を実施、アクションカードを使用して訓練を行った		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の居室はプライベート空間である為、居室へ入る際は基本的に一緒に入室する様に決まっている 入居者様の発言で感情が高ぶられている時などは、居室へお連れし、安心できる様傾聴行ったり、そばに寄り添い声をかけさせていた		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様からのご希望に関しては、しっかりと内容を傾聴し、できる事はすぐに取り組み、出来ない場合は丁寧に説明をさせていただき、それでもご納得いただけない様なら、なるべく早く対応する様に説明を行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせ、希望が何か傾聴し対応行っている 帰宅要望にはご家族様に相談・協力を依頼し、応じていただける事は殆どない為、職員にて可能な限り対応する様にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝起床後洗面台へお連れし、ご自身でできる方には洗顔・整髪していただき、介助の必要な方は、職員にて行っている 衣類もご自身と一緒に選んで着ていただく様にしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な入居者様には毎日、野菜の皮むきや米研ぎ、洗い物を手伝っていただいている 食事を終えられた方から、下膳も一緒に行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の健康状態を日々観察行い、その時々状態に応じて刻み食やペースト食にて状態の回復に努め、食事量が少ない時には高カロリー飲料や補助食品などを準備し、摂取していただいている 水分も脱水にならない様お一人お一人に応じて摂取量を測りつつ提供している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	居宅療養管理指導を受けている入居者様は特に、お一人お一人の口腔内のケアについてアドバイス頂きつつ、受けられていない方も含め、毎食後ご自身での口腔ケア後に職員にて仕上げのケアと確認を行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様お一人お一人に合わせ対応している 言葉で伝える事ができない入居者様に対しては、表情や動き等を見て、もっと気を配っていききたい		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人お一人の排便状況を確認し、水分補給していただき、歩行可能な入居者様にはホーム内を歩いていただいている 歩行の困難な入居者様は、介助にて運動していただいている それでも便秘気味の方には処方されている薬の調整を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様のその日の体調に合わせ、又入浴間隔が長くならない様に気を付けている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人時間が異なる為その都度入居者様に確認し、夜の睡眠に影響がない様時間を決め、休んでいただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の薬は個人個人に分け、定位置に保管している 変更や追加となった薬については、受診録に赤ペンで書き、見てすぐわかる様にしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の切り込み作業や洗濯物を畳んでいただいたりしている 折り紙や手芸などが好きな方がおられるが、その他の方々も全員が毎日楽しく過ごせる様に、お一人お一人の魅力を引き出せる様努力したい		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ禍にあり入居者様の外出は控えていただいているが、感染状況を見ながら、感染対策した上で買い物支援行っている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの入居者様はご自身での管理が難しい為、ホームにて管理させていただいている ご自分でお金を管理されている入居者様に対しては、外出希望があれば対応し、支払いはなるべくご自分で、帰設後はお金の計算を一緒にし間違いのないか確認行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身で電話やお手紙を書ける方は、ご希望があれば電話や手紙を送る支援をさせていただいている 又年末年始には、年賀状なども作成させていただいている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その日の気温や湿度でエアコンの温度を調節している 時間によっては天窓を開け換気をし、陽の光が入る事により時間の把握ができたり、リビング内に季節のものを飾る事によって、四季を味わっていただいている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室に戻り休まれる方もいらっしゃるが、リビングにてテレビを視聴されたり、入居者様同士で談話されたりと、ゆっくり過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の居室にはご家族様で写った写真や、ご家族様から預かった品物など飾っている 又入居者様による手作りのわらじやお人形を誕生日にプレゼントされ、お部屋に飾ると大変喜んでくださっている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には入居者様の名前が書かれた札がかけてあるが、視力が低下し見えづらい入居者様もいらっしゃるの、声かけにて対応している		